

## 例言

- ・本報告書は、2015年3月11日～17日にわたり、東京および仙台において開催された第三回国連防災世界会議の枠組みにおける国際専門家会合「文化遺産と災害に強い地域社会」の報告書である。
- ・本報告書は、文化庁の「平成27年度美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業」による補助金を得て、独立行政法人国立文化財機構が出版した。
- ・本報告書の編集にあたっては、株式会社オレンジ社に業務委託を行った。
- ・本報告書には、国際専門家会合で行われた講演及び討議を収載するとともに、勧告文や展示ポスター等の一連の成果を参考資料として付した。ただし、勧告文作成プロセスにおける討議及び報告については、紙面制約の関係上、割愛した。
- ・編集にあたっては、各会場で収録した音声データに基づきオレンジ社が作成した原稿を、各講演者に確認しているが、確認を得られなかったものもあり、また、表現統一の必要や紙面制約の関係から、平成28年1月～3月の期間に下記のワーキンググループを立ち上げ、作業を行った。
- ・訳の作成にあたっては、直訳としての正確性よりは、内容をわかりやすく伝えることに重点を置いた。

### 【ワーキンググループ】（ ）内は作業期間における所属

監修	下間久美子（文化庁）
編集統括（英語）	小泉雅英（オレンジ社）
編集統括（日本語）	羽賀尚久（オレンジ社）
作業リーダー	山内奈美子（筑波大学）
作業	アンナ・ボガノヴァ（筑波大学）
	イメ・アルセ・ヒュットマン（筑波大学）
	金出ミチル（歴史的建造物修復家）
	益田兼房（国立文化財機構）
	リンネ・マリサ（京都国立博物館、国立文化財機構）
	（作業者は五十音順）

- ・ワーキンググループの作業においては、岩田侑利子（東京国立博物館）、梅津章子（ICCRUM）、藤岡麻理子（政策研究大学院大学）及び金度源、石田優子、崔明姫、米島万由子（以上4名立命館大学）の各氏の協力を得た。

## 略語・対訳一覧

略語	名称・用語（英語）	名称・用語（日本語）
ACA	Agency for Cultural Affairs, Government of Japan	文化庁
DFID	Department for International Development, UK	英国国際開発省
DRR	Disaster Risk Reduction	防災
DRM	Disaster Risk Management	災害リスク管理
FAO	Food and Agriculture Organization of the United Nations	国際連合食糧農業機関
ICCROM	International Centre for the Study of the Preservation and Restoration of Cultural Property	文化財保存修復研究国際センター
ICOM	International Council of Museums	国際博物館会議
ICOM-DRTF	ICOM Disaster Relief Task Force	ICOM 災害救援タスクフォース
ICOMOS	International Council on Monuments and Sites	国際記念物遺跡会議
ICOMOS-ICORP	ICOMOS International Committee on Risk Preparedness	ICOMOS 防災国際学術委員会
IFRC	International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies	国際赤十字赤新月社連盟
IOM	International Organization for Migration	国際移住機関
MDGs	Millennium Development Goals	ミレニアム開発目標
NICH	National Institutes for Cultural Heritage	国立文化財機構
PDNA	Post-Disaster Needs Assessment	災害後復興ニーズ評価
UNDP	United Nations Development Programme	国際連合開発計画
UNIDO	United Nations Industrial Development Organization	国際連合工業開発機関
UNESCO	United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization	国際連合教育科学文化機関
UNICEF	United Nations Children's Fund	国際連合児童基金
UNISDR	United Nations Secretariat for International Strategy for Disaster Reduction	国連国際防災戦略事務局
UN-Habitat	United Nations Human Settlements Programme	国際連合人間居住計画

## 目次

報告書の刊行によせて	i
例言	iii
略語一覧	iv
巻頭論文（文化庁文化財総合活用推進調査官 下間久美子）	1

## 東京戦略会議

## ■セッション1 文化遺産と防災

ファシリテーター：ジョバンニ・ボッカルディ、下間久美子

開会の挨拶（国立文化財機構理事長 佐々木丞平）	13
歓迎の挨拶（文化庁長官 青柳正規）	14
開会に寄せて（UNESCO 文化局防災担当主任 ジョバンニ・ボッカルディ）	15
開会に寄せて（ICCRUM 所長 ステファノ・デ・カーロ）	16
国際専門家会合の概要（ICCRUM サイトユニット主任 ジョセフ・キング）	17
基調講演(1) 文化とリスクの理解：人々の文化、組織の文化と遺産保護（テリー・キャノン）	19
基調講演(2) 文化遺産、社会の結びつきと持続的発展（ヤスミン・ラリ）	26
基調講演(3) 文化遺産と地域社会のレジリエンス（齊藤孝正）	34
全体討議	37

## ■セッション2 災害リスクの理解における文化遺産の役割

ファシリテーター：ティモシー・カーティス、大窪健之

講演(2-1) 歴史的環境の変化と新たなリスクの創出防止の必要（クリストファー・マリオン）	47
講演(2-2) 防災の推進における伝統的知識体系の活用（ウェバー・ンドロ）	50
講演(2-3) 伝統こそ新しい：現代において強靱性を実現するための伝統的建築技術 （ランドルフ・ランゲンバッハ）	53
講演(2-4) 総合的な遺産保全に基づく地区防災活動（田中 彰）	60
円卓討論（ジェレミー・バーンズ、アリサンドラ・カミンズ、長谷見雄二、菊池健策）	63

## ■セッション3 災害リスク管理のためのガバナンスと制度の強化

ファシリテーター：パウラ・ホランド、益田兼房

講演(3-1) スウェーデンにおける文化遺産と防災—協力の重要性— （エリカ・ヘッドハマー）	73
講演(3-2) 地方の歴史やアイデンティティを保全するための地域防災 （スー・コール／代読：ダイアン・ダグラス）	75
講演(3-3) コミュニティー・リーダー・行政官の積極的関与および主体的取り組みの必要性 （ガブリエル・ウェイチャート）	78
講演(3-4) 文化遺産への緊急対応のための関係分野の連携（フランス・デスマレ）	82
円卓討論（ナグツォ・ドルジ、小谷竜介）	85

## ■セッション4 災害時対応、復旧、復興のための備え（第1部）

### —文化遺産に対する「Build Back Better」の解釈—

ファシリテーター：アパルナ・タンドン、高橋 暁

講演(4-1) 予防、災害時対応、復旧のための資料収集（スコット・ブランディング）	95
講演(4-2) ICORP（防災国際学術委員会）災害データベースおよび文化遺産のリスク管理 （ザビエル・ロマーニョ、エスメラルダ・パウペリオ）	100
講演(4-3) 救出と応急処置活動のための協力（コリン・ウエグナー）	102
講演(4-4) 防災のための遺産専門家ネットワークの構築と維持を図る重要なメカニズムとしての ブルーシールド（ピーター・ストーン）	107
円卓討論（小林直子、高妻洋成、栗原祐司、フレドリック・ローゼン）	114

## ■セッション5 災害時対応、復旧、復興のための備え（第2部）

### —災害に対する地域社会のレジリエンスを高めるための文化遺産—

ファシリテーター：ティモシー・カーティス、梅津章子

講演(5-1) 災害後復興ニーズ評価(PDNA)に文化遺産を組み入れる（ジョバンニ・ボッカルディ）	129
講演(5-2) 太平洋地域におけるPDNAのニーズ（パウラ・ホランド）	132
講演(5-3) 遺産調査の方法論に災害リスク分析を組み入れる（腰原幹雄）	135
講演(5-4) パートナーシップの構築と強化～誰とどのように（簡 賢文）	137
円卓討論（ルジャヤ・アバコーン、ロビン・リデット、関澤 愛）	140

## ■セッション6 持続的発展のための防災への投資

ファシリテーター：ジョセフ・キング、梅津章子

講演(6-1) 文化遺産災害リスク管理に関する政策、計画、技術、制度の向上のための研修（1） （ロヒト・ジギヤス）	153
講演(6-2) 文化遺産災害リスク管理に関する政策、計画、技術、制度の向上のための研修（2） （アパルナ・タンドン）	156
講演(6-3) 緊急的な保全と長期的な復旧への財政的、技術的支援（ヘンリー・ツ・エンジー）	158
講演(6-4) 災害に強い世界遺産都市（マイケル・ターナー）	162
円卓討論（フリオ・バルガス・ニューマン、杜 暁帆、室崎益輝、後藤 治）	166

## 東京シンポジウム

開会の挨拶（国立文化財機構理事長 佐々木丞平）	175
開会の挨拶（文化庁長官 青柳正規）	176
基調講演 東日本大震災被災文化財救済活動を振り返って（亀井伸雄）	177
報告 文化財の種別ごとの取り組み	
1. 美術館・博物館施設の被災と、動産文化財の救出活動（岡田 健）	183
2. 建造物や町並みの被災と復旧（関口重樹）	187
3. 史跡や名勝の被災と、復興における埋蔵文化財の調査（禰宜田佳男）	190
4. コミュニティーの被災と、無形の文化遺産の被災（菊池健策）	194

## 事例報告 宮城県

- ・気仙沼市に所在する文化財の復旧（幡野寛治）…………… 198

## 事例報告 福島県

- ・福島県に所在する文化財の現状（丹野隆明）…………… 201
- ・放射能に汚染された地域の文化財の取り扱い（佐野千絵）…………… 206

今後の展望 文化財防災ネットワーク構築の取り組み（栗原祐司）…………… 210

討論（ファシリテーター：下間久美子、建石 徹）…………… 213

閉会の挨拶（東京国立博物館館長 銭谷真美）…………… 216

### 第三回国連防災世界会議 テーマ別会合「災害に強い文化遺産」

開会の挨拶（議長／松浦晃一郎）…………… 219

セッションの概要（モデレーター／ステファノ・デ・カーロ）…………… 220

#### パネルディスカッション

ジョバンニ・ボッカルディ（UNESCO 文化局防災担当主任）…………… 221

青柳正規（文化庁長官）

コリン・ウエグナー（スミソニアン協会文化遺産保護オフィサー）

ウェバー・ンドロ（アフリカ世界遺産基金所長）

ガリーナ・アンガロバ（先住民に関する政策研究・教育国際センター）

ピエールパオロ・カンポストリーニ

（ヴェネチア・ラグーンシステム研究活動協力コンソーシアム代表）

まとめと閉会の挨拶（議長／松浦晃一郎）…………… 235

### 仙台シンポジウム

開会の挨拶（国立文化財機構理事長 佐々木丞平）…………… 239

基調講演 文化遺産と防災（前 UNESCO 事務局長 松浦晃一郎）…………… 240

#### パネルディスカッション

（青柳正規、ステファノ・デ・カーロ、土岐憲三、ジョバンニ・ボッカルディ、松浦晃一郎）… 244

閉会の挨拶（文化庁文化財部文化財鑑査官 齊藤孝正）…………… 250

### 巻末資料

仙台宣言…………… 253

仙台防災枠組 2015-2030 …… 255

国際専門家会合「文化遺産と災害に強い地域社会」勧告（含・参加者リスト）…………… 275

ポスター「文化遺産防災の取り組み—知り合うことで広がる協力」…………… 283